

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社(1階ユニット)		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&jirvosyoCd=2290400247-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様が望むような外出支援は実施できてはおりませんが、エリア全体でお祭りのような食事の提供したり、外部に頼み移動販売に来ていただいたりと今しかできないケアを実施しています。体調面に関しまして、1日1000cc～1500ccを目標値として水分摂取量を実施し、体調の

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は全国に290ヶ所のグループホームを擁しています。運営居室数で日本一のスケールメリットは毎月の研修や職員制度に反映されており、IT化による業務の効率化も図られ、利用者と過ごす時間も満たされています。法人エリアでの活動も充実しており、イベントではエリア内の事業所の面々が応援に駆け付け、鶏ガラスープづくりから始まるプロ並みのラーメンが提供される日もあります。また地域との関係も着々と進み、隔週で隣町のパン屋が訪れる事は利用者の楽しみの一つです。近所から届いた野菜の苗を畑で育て、収穫期になると指南も入るとい関係も築けていて、散歩しながら地域のお祭りに参加したり、町内清掃にも加わっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有していく事が出来るように定期的に行う研修や面談等で確認し不明な箇所があれば説明し理解を得たうえで実践に繋げられるようにしていく	理念は事務所に掲示しています。新人職員には理念ブックとカードを渡し、毎月1日と15日のどちらかで法人教育研修課の新人研修を受講してもらっています。ユニット会議ではパソコンによる動画視聴をおこない、キャリアパスでの試験は全職員が暗記のうえ説明できています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	前はコロナの影響もあり地域との交流は困難でしたが5類になったことで少しずつ交流の場だったり外出の計画も行っている	回覧板情報から地域清掃には本年3回参加しています。そんな姿勢が伝搬するのか、隣家からは苗のおすそ分けがあり、野菜の育て方まで指南してもらっています。パンの移動販売を心待ちにしたり、祭りには徒歩で出掛けてハレの日を楽しんだり、地域に溶け込んだ暮らしがあります	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独自の新聞を作り活動報告も行いながら営業の際に配布している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの5類の移行により運営推進会議を行っています。そこで状況報告や活動報告を行って意見を頂きサービス向上に活かせるようにしている	コロナ禍では書面開催でしたが、5類に移行となったことから8月より参会での運営推進会議に取り組んでいます。家族には都度会議内容を送っていて、後日電話確認と面会時で意見の聞き取りをおこない、サービス向上につなげています	運営推進会議のメンバー構成が十分でないため、民生委員や自治会長への声掛けを続けるとともに、保育所の園長など新たな開拓を期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中で会議が出来なくても活動報告や状況報告を書面にて作成し提出している	市役所とは生活保護受給の利用者に係る事柄で毎月相談となることがあり、書類提出を含み頻繁に関わっています。また地域包括支援センターが開催する認知症カフェに利用者2名と職員1名で参加したこともあります。開所以来、介護老人保健施設とも関係が良好です	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては定期的に会議の中でも研修を行い全職員に周知出来る機会を持っている。また3か月毎に身体拘束廃止委員会を行い記録を回覧し周知している。	法人の全体研修が年に4回あります。それらを基礎に身体拘束廃止委員会が中心となりユニット会議で職員に説明しています。エリアで実施する研修では毎月身体拘束研修があり、欠席の職員には資料を供覧するなどして知識向上に努めています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修も定期的に会議の中に取り入れ研修を行っている。また、虐待を理解したうえで現場でも行われていないか定期的な確認と見かけたときは報告することを呼びかけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に会議の際に取り入れて話し合い活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い分からない所は随時必要があれば説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置を行っている。また、面会時の時に聞いた意見や電話連絡を行ったときに頂いた意見は運営に反映する様になっている	利用者本人が好みとする食べ物や衣類などが家族から持ち込まれ、そこから生い立ちの話となるなど、面会での会話を通じて情報を得ています。また「愛の家通信」に掲載された写真から「生き生きした生活をしているね」といった家族の言葉が届き、職員の励みになっています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に1度面談を行う機会を設け話し機会を作り意見を聞けるように努めている	「管理者がユニットリーダーと面談」「ユニットリーダーは職員と面談」というように話しやすい場をつくり、活発な意見が出るように配慮しています。勤務の調整や利用者の備品購入などその都度完遂され、風通しの良い環境がつけられています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回キャリアパス制度があり、昇給資格支援制度がありスタッフに周知し向上心に繋げるよう支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内だけでなくエリア内、外部研修の場を設け力量に応じた研修の参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は研修の参加や営業を通じて少しずつ行っている。また会社内ではホーム間との交流、研修イベントを通して行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り入居者様との関わる機会を作りやりたいことをききアセスメント表、ケアプランに本人の声として取り入れ周知し共有したケアに活かしていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご家族様の要望を聞くことが出来るようにしている。入所後も様子をお伝えしながら心配事はないか聞き必要に応じてはホームで出来る事を行っていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めご家族様と話し必要としている支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を一緒に行っていき日々の生活を支えあえる環境作りをしその都度感謝の気持ちをお伝えさせて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様の良い関係性を支えつつ、生活歴や出来る事、好きなことなどをご家族様にきき取り入れていく。困ったことがあった時には相談をしていき本人様の日々の暮らしに繋げ共に本人様を支えていく関係づくりを努めていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様に常に相談していきながら馴染みの関係性が保てるよう支援している	面会には働いていた頃の同僚や近所の知人・友人が訪れており、以前のかかりつけ医に家族が通院介助するケースでは毎月の逢瀬に突っいています。事業所でも「家族や地域と縁が切れないように」と、電話や面会時にイベントの参加や外出支援を勧奨しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんと楽しく過ごして頂ける様にレクリエーションなどを通じ関われる時間の提供をしたり席も一定にせず時々席替えをし孤立することがなく馴染みの環境を提供するように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもフォロー出来る事があれば対応していきたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様に意向を聞き毛あプランに組み込みそれに合った支援を提供できるように努めている。困難な場合はご家族様にきき把握し検討に努めている	気づきシートの活用で利用者の嗜好の把握や情報の共有をおこない、会議で確認しています。聞き取りの中から犬好きだとわかると、家族の協力を得て愛犬と一緒に面会の運びとなり、またピクニック好きな人には生活機能向上をねらいとしてPTがプログラムに取り入れています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様やご家族様に聞いたり、又、施設からの入所ならばそちらからも情報をいただいたり居宅からであればケアマネからの情報を頂いたりし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで情報交換を行ったりその都度変化があった時には随時記録に入力し毎日の申し送りで情報共有、また、朝礼でも報告し全体で、共有把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様には定期的に報告し、相談させていただいています。定期的に往診。受診時に主治医や看護師にも相談しアドバイスやアイデアを頂き、現場共有できるようにし、ケアプランにも反映し作成している	介護支援専門員や計画作成担当者が電話や面談で家族からの要望を集め、担当者会議で介護と生活機能向上について協議しています。タブレット端末で介護計画書と生活機能向上計画書を確認できる仕組みがあり、IT化が進んでいます	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の電子記録(ノータイス入力)に個別に記録し情報を共有し介護計画の見直し時に活用できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会は特に規定なく再開している。受診においてもご家族様がいかれたり必要に応じては職員が対応している。リモート面会も希望があれば対応時前回同様継続している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分には出来ていない。本人様に対しても十分には出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人、御家族様に意向を聞いています。その希望に応じた対応を行っています	昨年度までは在宅の頃のかかりつけ医を継続する利用者が6名いましたが、本年は家族の希望や本人の体調などで変更する人が増え、1名となっています。訪問診療を受ける他17名にはユニットリーダーが同席のうえ、職員は受診報告書で確認しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1で来られているので入居者様の状況報告をし、それを踏まえた上で見て頂きアドバイスや指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはホームで過ごしていた状態を病院側にサマリーを作成し提出している。病院側から足りない情報の依頼があった時はスムーズに答えるようにしている。又、入院中でも様子を見て病院側に連絡し、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、御家族様の意向、本人様の状態も踏まえ病院側と相談し方向性を決めていく。又、終末期、看取りの対応になる時は、現場スタッフと話し準備し納得した上でケアを行っていくようにする	契約時に「看取りはおこなわない」との説明と、医療行為が必要な場合の対処方法を家族に伝えていきます。変化があれば都度家族の要望を確認しつつ事業所の対応ができる範囲を説明、家族の納得と負担軽減になるように対応しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が分かりやすいようにマニュアル作成をし、目の届くところに置いてある。会議などで説明も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行う防災訓練で訓練している。避難場所など災害があった時の説明訓練は行っている	年間計画で4月と10月に防災訓練を実施しています。今年度4月の開催には消防署の立ち合いを求めており、消防署職員からの「何か起きた時には無理に避難せず消防署の到着を待ってもよい」との言葉には、改めて地域に守られていると実感できています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人生活歴だったり、生活だったり、関わっていく中でどのような関わり声かけがいいか会議等で話し合い言葉がけや対応を行っている	気づきがあればユニット会議で言葉遣いや接遇についての話し合いをおこなっています。利用者の前では失禁や汚染といった言葉はNGワードとし、「椅子が濡れてたから拭くね」というように、置き換えの言い方を職員で統一しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わり時だったり、会議時に行っている気づきシート作成時に聞き取りを行い思いや希望を話して頂ける様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合優先はせず、その方のペース、希望に合わせて対応を行う様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの暮らしをご家族様や本人様に聞きその馴染の身だしなみが継続して行えるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度など出来る事は行って頂ける様に努めている。出来る事を見極め行えることを活かしていきたいと思う	調理専任職員が行事メニューを作成していて、月に一度の食事会では利用者のリクエスト食を提供しています。畑で採れた野菜や近所から届く食材をアレンジした料理には利用者も「うちの野菜」と喜び、話材も弾んでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事においてはその方が状態に置いた形態の対応などを行い栄養を取って頂ける様にしている。又食事量や水分量の把握に努めるため記録として残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じて声かけは行うものの磨いても出来ない事もある。定期的に歯科往診で検診の時、見てもらえるようにしている。出来る方への声かけ、介助を要する方の対応を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄状況を記録したものを検討しはお説パターンや習慣を把握してトイレの排泄や自立に向けた支援を行えるよう支援している	これまでの排泄チェックシートからタブレット端末に切り替え、業務の効率化が図られ、また毎日1500ccの水分摂取で下剤に頼らない自然排泄の取組みが叶い、下剤量が減っています。職員が2人であられるときは立位が難しい利用者も「トイレで」を努めています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳の提供や工夫した水分の提供、水分量の把握を行い又散歩や適度の運動の促しを行い予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが入浴順に至っては本人様のタイミングに合わせ気持ちよく入浴して頂ける様に努めている	好みのシャンプーやトリートメントで和やかな時間を過ごしていますが、「少しでも多く入浴させてあげたい」との職員意見から、週2回の入浴を3日に1度の入浴へと向上させています。「業務が忙しいのにとってもありがたいです」と、家族からもお礼の言葉が届いています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションや散歩、運動とあるが本人様の思いを尊重した対応に努めている。休息されるじかんも本人様の好きなようにとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については薬の情報を個人ファイルにいれ誰もが見れるところに保管している。特に注意してほしいことは薬剤師から直接話があるのでそれを現場で周知出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の希望、御家族様からの要望があった時にはこたえられる等に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類となり少しづつ感染予防しながら出かけられるようにしている。今後においても計画をしていきたいと思う	日課となっている散歩途中で祭りに遭遇できたときは、子どものしやぎりに利用者も大喜びの1日となりました。また買い物外出には不定期で出かけるほか、地域包括支援センターの認知症カフェに出かけた利用者もいて、その時はモノ作り体験に参加できています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が好きなのを買えるようにはなっているが、以前は行けていた買い物の再開は出来ていない。しかし、ホームまで来てくださる移動販売の時には希望に応じて好きなものを購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があれば行う様に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日の掃除を行い不快がないように努めている。また季節感を感じて頂ける様に工夫し共用スペースに貼りの楽しく居心地よく過ごして頂ける様に努めている	廊下やリビングは折り紙や塗り絵を貼らずにウォールステッカーで落ち着いた空間づくりを施しています。コロナ禍で取組んできた、手すりやドアノブの1日2回の消毒、居室やリビングにおける空気の入れ替えは5類移行の現在も習慣が継続されています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお話が合う方と近くの席を設けたり、ソファで集まり好きな方のDVDを見られたり思い思いに過ごせる共用空間の提供が出来るように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては馴染みのあるものを持ってきていただいたり本人とご家族様の要望に沿ったお部屋の配慮を行っている	家族に「自宅で生活していた部屋と同じように」とお願いしていることが功奏して、冷蔵庫や机、ドレッサーの持ち込みもあります。携帯電話で家族と毎日連絡をとる人もいて、在宅生活の延長線であるとともに「此处で楽しい時間が増えるよう」職員が支援しています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースのトイレの場所はわかりやすいように表示し居室内でも配置の工夫を行い出来る事、わかる事を活かせる生活が送れるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社(2階ユニット)		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&jirvosyoCd=2290400247-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様が望むような外出支援は実施できてはおりませんが、エリア全体でお祭りのような食事の提供したり、外部に頼み移動販売に来ていただいたりと今しかできないケアを実施しています。体調面に関しまして、1日1000cc~1500ccを目値として水分摂取量を実施し、体調の

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は全国に290ヶ所のグループホームを擁しています。運営居室数で日本一のスケールメリットは毎月の研修や職員制度に反映されており、IT化による業務の効率化も図られ、利用者と過ごす時間も満たされています。法人エリアでの活動も充実しており、イベントではエリア内の事業所の面々が応援に駆け付け、鶏ガラスープづくりから始まるプロ並みのラーメンが提供される日もあります。また地域との関係も着々と進み、隔週で隣町のパン屋が訪れる事は利用者の楽しみの一つです。近所から届いた野菜の苗を畑で育て、収穫期になると指南も入るとい関係も築けていて、散歩しながら地域のお祭りに参加したり、町内清掃にも加わっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社した職員は、必ず新人研修に参加し、その時に理念についての研修を行い、内容を理解できるようにしている。また、キャリアパスにも理念を理解出来るように項目を取り入れ、どう実践しているのかを聞くようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ渦になり、外出や地域の方たちとつながる機会は減ってしまっている。散歩に出た時には、近所の方に挨拶をするようにしたい。五類に移行してからは、地域清掃などの屋外の行事から、参加できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞の中に、認知症に対するコラムを取り入れたり、活動報告を写真も交え入れるなどして、居宅支援事業所等に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦が5類になり、地域包括や市役所の方にも案内を出すようになった。まだ、ご家族様の参加はないが、活動報告をご家族様等に郵送して、電話連絡時にご意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話にてアドバイスを頂いたり、書類提出時にホームでの取り組みを伝えるなどして、協力関係を築くように心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間スケジュールに身体拘束についての研修を取り入れ実践している。また、身体拘束廃止委員会を3カ月に一度行い、議事録は職員に観覧してもらいを共有するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を年間スケジュールに取り入れ行っている。また、職員の職務分掌に不適切ケアを見た時は、その場で上司に報告するとの項目が入っており、面談の時出来ているかを確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間スケジュールに取り入れ、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、説明を行い分かりづらい箇所については、その場でまたは後日連絡があったときには後日、お答えし不安が無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に意見を行って頂けるようにしている。また、面会時や電話で意見を頂いた時には、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に1回面談を行い意見を聞いたり、職員アンケートを行い、意見や提案を記入していただく機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設けており、努力している職員には、昇給の幅があつたり、資格支援制度や資格手当も設けており、向上心につながるような職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	エリア内の研修をリーダー研修、リーダー候補研修、新人研修などにわけ、その職員にとってわかりやすい研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業部会議を定期的に行い、話し合いを行う機会をもうけている。他ホームへの見学等も行い交流や意見交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に直接来てくださった方に対しては、本人にその場で困っていることや不安に思っていることなどを聞き、事前に職員にも共有している。また、入所されてからも本人の声を、記録や申し送りノートにて共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族にお話を聞き、困っていることやホームに入所され心配なことなど伺うようにしている。それについて一緒に考え、ホームで出来る支援をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、何が必要であるかを話し合っている。車椅子や靴などの介護用品など、家族がそろえることが難しい場合は、本人にあったものなどホームにて探し提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり食事作りなど生活リハビリを行っていく中で、常に感謝に気持ちを忘れず、人生の先輩として敬意を表せるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴など、家族に伺い会話の中に取り入れたり、困ったときには家族に相談し会話の中からアイデアを頂いたりしながら、本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方には、入所前のかかりつけ医を継続していただいたり、家族に了承を得られた時には、知人や親戚の方との面会もしていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が同じテーブルに座って頂けるしたり、レクリエーションを行う中で、自然と会話ができるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したあとも、必要があれば相談やフォローが出来るようにはしているが、今のところその状況になっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にどのように生活していきたいかの希望を聞き、ケアプランに載せている。また、担当者会議の時には、気づきシートを活用し、その都度本人に今やりたいこと、夢をお聞きし会議で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に前入所施設から情報を頂いたり、ご家族様に馴染みの暮らし方や、お好きだったこと、趣味などお聞きし、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者への申し送りを行っている。また、できる事の新たな発見や、以前出来ていたことが難しくなってきたなどの変化については、日々の申し送りに加え、朝礼や会議でも報告し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態定期的に家族に報告し、相談させて頂いている。また、主治医、看護師にも報告しその都度アドバイスなどを頂いており、申し送りノートや会議で共有し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を、携帯電話のNoticeとうアプリに入力し記録に残している。過去の情報を職員は確認するようにし、大事な情報や変化はは申し送りノートなども活用しながら実践し、現状を会議にて報告し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会や受診が中止になった時には、職員が受診対応を行ったり、面会が厳しいかったり、遠方だったりする方にはzoomでのリモート面会を行うなど、その時々にあったサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握には努めているが、本人が力を発揮して関わるといふ事までは出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ホームの往診医か今までのかかりつけ医のどちらに診て頂くか、ご家族に確認してから、主治医を決めるようにしている。今までのかかりつけ医とこたえられた方には、無理にホームでの往診を進めることなく、継続して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回来る訪問看護師に利用者の状況を報告し、支持を頂いている。また、訪問看護師からの指示や、アドバイスを職員と共有し、実践するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護サマリーを作成し病院にお渡しするようにしている。また、病院の看護師やソーシャルワーカーの方に連絡し、その都度状態をお聞きし、早い退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、今後どのようにするかを家族や病院と連携をとり相談しながら、方向性を決めている。また、看取り介護という方向になった場合は、職員と話し合いの機会を設け準備し、納得したうえでケアを行っていくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。また、利用者がどのような状態の時にはどのような対応をする。または、どこに連絡をする。といった資料を作成し、職員がすぐに見れるところに掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。また、年に2回の防災訓練を行い、そのうちの1回は、夜間想定での訓練を実施している。また、避難場所を伊東競輪に設置させて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や昔行っていた仕事など、職員間で共有しながら、どんな言葉かけがよいのか、会議等で話し合い、行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者会議の時には、気づきシートにて直接本人から、今やりたいことを聞き出し記入している。また、食べたいものなど聞かれた時には、イベントでそれを取り入れるなどの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や散歩、レクリエーションを毎日行っているが、強制ではなく、そな方の気分に合わせて休んでいただいたりしながら、参加希望の方に実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方には、職員が洋服を選ぶのではなく、ご自分で選んでいただいている。また、ご自分で選ぶのが難しい方にも、どちらがよいかなど選んでいただくなど工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフがお休みの時には、介護スタッフが調理を行っているので、野菜を切ったり、盛り付けを手伝って頂いたりしている。また、食器洗いや食器拭きも毎日行って下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社より、栄養士が考えた献立表と調理指示書が送られてきて、バランスの取れた食事を提供している。また、食事にゼリーを付けたり、散歩や体操後に水分提供するなどして、水分確保が出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアでは、ご自分ではきれいに磨くことが難しい方には職員が付き、磨きづらいところを補ったり、出来ない方には、介助させていただき行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ユニット会議で話し合い、1人1人のトイレ誘導の時間や、間隔を決め行っている。また、普段ベットの上でのパット交換の方でも、トイレに座ると排便がある方もいるので、朝食後座っていただくなどの対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別にヨーグルトを食べて頂いたり、皆様に寒天ゼリーを食べて頂き、食物繊維、水分を多くとっていただくなど工夫している。また、生活機能訓練や散歩など、体を動かし自然に排便できるように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には決まっているが、入る順番の希望を聞いたり、その日はいりたいなどの希望があれば、柔軟に対応できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ずっと体を起こしていると疲れてしまう方などは、居室で休んで頂く時間を作っている。また、ベットや布団など、その方の生活習慣に合わせて使い休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	水分や運動で排便が出るようになった方の下剤を減らしたり、生活に慣れ夜間眠れるようになった方の、頓服にしたり、その都度主治医に相談しながら、適切な用量で服薬できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの力に合わせ、洗濯物を置んだり、食器洗い食器拭き、盛り付けなど、出来る方には行っていただき役割を持って頂いている。また、事前に食べたいものなど書いていただき、曜日を決め個別に購入しお渡ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦になり、外出する機会は減ってしまっている。感染者数の少ない時には、近くのダムに行くなどしていたが、最近は近くを歩き散歩するなどにとどまっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は、一緒に買い物に行っていたが、今はコロナ渦で買い物に行くことは出来ていない。職員が本人が買いたいものを聞き、紙に書いてもらい代わりに買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、いつでも自由に電話をかけている。また、年賀状を本人にかいていただき家族に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の飾りを季節によって変えている。御利用者が散歩に行くときなど、会話の中に取り入れ、季節を感じて頂いている。また、フロアーの飾りも季節によってご利用者と一緒に作ったりしながら変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、よくお話しされる気の合った方同士を近くに座れるようにしている。また、御自分の席以外にもテレビの前にソファがあり、自由に座れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される時に、ホームでの生活に早く馴染んでいただけるよう、なじみの家具や使い慣れたものを持ってきていただけるようお話ししている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように、張り紙を貼ってご自分で行けるように工夫したり、部屋の壁にハンガーがかけられるようになっており、ご自分で上着を変えたり自立した生活が送れるようにしている。		